

視点

View Point

中村 誠 氏

長野商工会議所 副会頭

「地域経済・地域社会の活性化と質的豊かさの実現・少子高齢化・人口減少社会への挑戦」を目指し、八十二長野銀行では、事業者の皆様のありたい姿の実現、持続的な成長を支援するために、現在、総合コンサルティング機能を強化しています。地域の活性化という目標を同じくする長野商工会議所と連携しながら、個の力を面の力として、事業者の力強い伴走者になりたいと思っています。



個の力を結集し面の力として、事業者の思いを実現する伴走者に

事業者がしつかり挑戦できる
伴走支援を

長野商工会議所副会頭に就任いただきました。どんな思いでいらっしゃいますか。

中村 非常に光栄に思っています。長野商工会議所は県都の商工会議所であり、規模においても長野県経済を牽引する存在です。就任から半年が経った今も、副会頭という立場の重責を感じています。長野商工会議所には、グローバルな展開をしている製造業者があり、生活に密着して地域を支える企業あり、東京に本社を置く上場企業の支社店もあり、多様なメンバーがバランスよく揃っています。部会や委員会の活動も活発で、特に脱炭素、地域イノベーション、女性活躍といった新しい動きをしつかり捉えて対応されています。私は自身の銀行におけるこれまでの経験や銀行のリソースを使い、長野商工会議所の活動ひいては地域に役立つていただきたいと思っています。長野県には今、多くの課題がありますが、一方で魅力ある資源や人材が多いことも事実です。会員企業の事業者がしっかりと挑戦できる伴走支援を行つて、長野市から地域活性化の流れをつくり、それを県全体につなげていきたいと考えています。

人口減少の影響が懸念される 経営上の課題

長野市の現在の経済状況、中小企業が抱える課題について、どう認識されていますか。

中村

経済全般でみると、コロナ禍の後、力強さには欠けるものの緩やかに回復している過程にあります。4月にトランプ関税が発表された折に

テイングメニューをご用意し、グループ企業や県外・海外の拠点も活用しながら、企業経営のお悩みに対応しています。

また、静岡銀行、山梨中央銀行との連携を通じて、移住促進、海外資本・人財を呼び込む新事業の展開、地域経済の持続的な発展に資するベンチャー・グローバル分野の協業拡大やM&A・事業承継の強化にも取り組んでいきます。

本誌読者の事業者の皆様には、企業経営でお悩みのこと、事業成長するうえでご相談がございましたら、どうぞお気軽に声をお掛けください。

地域の活性化とこれにつながる事業者支援という目標を、当行は長野商工会議所と同じくします。互いにいろんな課題を共有し、強みを補い合い、外部との連携も使いながら、ここでも個の力を面の力とし、事業者の思いを実現するための力強い伴走者になりたいと思っています。

は、不透明感が強まり不安も高まりましたが、そちらも落ち着いています。設備投資や消費もますます順調です。住宅が価格高騰の影響を受けて回復が弱いですが、総じて賃金等も上昇し、好循環に入る兆しがあると捉えています。

中小企業が抱える課題には、少子高齢化、物価高、DXや気候変動への対応などがありますが、いちばん大きなものは、人口減少がもたらす影響でしあう。人材確保、事業承継で悩まれている方が多いですし、市場自体が縮小することも懸念されます。むろん、こうした課題は長野だけの話ではなく、全国等しくあるわけですから、そこを解決できればチャンスはあると思っています。

また、長野の強みとして、観光とりわけインバウンド需要が拡大していること、首都圏からのアクセスの良さも手伝い、移住希望地として注目されていることが挙げられ、これら利点を活かす方法もあるはずです。

一人ひとりの事業者の個の力を結集して面の力とし、地域全体が発展することが望まれます。

総合コンサルティンググループへの飛躍

八十二長野銀行が誕生しました。今後貴行は地域でどんな役割を担っていかれますか。

中村 今回の経営統合には、地域経済が縮小するなか、2行がひとつになり、集中して地域の活性化、2行がひとつになり、集中して地域の活性化

化に取り組んだ方が良いとの思いがありました。2024年5月には、経営統合を踏まえて新銀行が何を目的にどこへ向かっていくのか、その指針となる価値創造プロセスを作成し、私たちが実現したいアウトカムを「地域経済・地域社会の活性化と質的豊かさの実現・少子高齢化・人口減少社会への挑戦」と定めました。

とりわけ、重要なステークホルダーである、地域社会・お客様に対しては、県民一人あたりGDPの成長・資産の増大、地域の中核となる企業の成長や新たな企業の育成を柱とする地域経済の活性化、脱炭素、生物多様性、地域の文化・観光資源の発展と次世代への継承を、統合した銀行においても実現したいと内外に示しました。

この価値創造プロセスのもと、10年後を見据えた中期経営計画では「魅力ある未来を地域と共に創る」を長期ビジョンとし、さらに当初3年間で「総合コンサルティンググループへの飛躍」を掲げ、金融のみならずコンサルティング機能をしつかり発揮してお客様に還元していきたいとの方針を明確に打ち出しました。

事業環境が劇的に変化するなか、企業のありたい姿の実現、持続的な成長を支援するため当行では、経営計画策定をはじめとする経営戦略、人材確保や事業承継にも関わる組織・人事戦略、IT/DX戦略、海外販路開拓などグローバル戦略のほか、サステナビリティ分野においてコンサル

DATA
株式会社八十二長野銀行
[設立] 1931年8月1日
[所在地] 長野市大字中御所字岡田178番地8
[TEL] 026-227-1182
[事業内容] 銀行業

横顔

長野マラソンに10回、かつて赴任した香港やシンガポールの大会にも出場し、最高記録は3時間28分。フルマラソンを走らなくなつた今も、週末のランニングを趣味にしている。